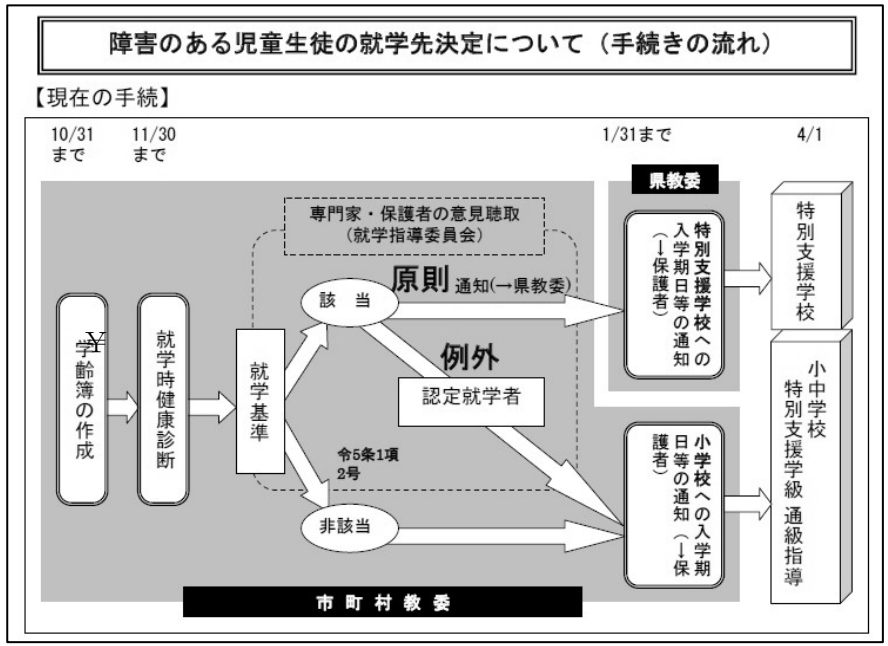

図１　現行の就学先決定システム

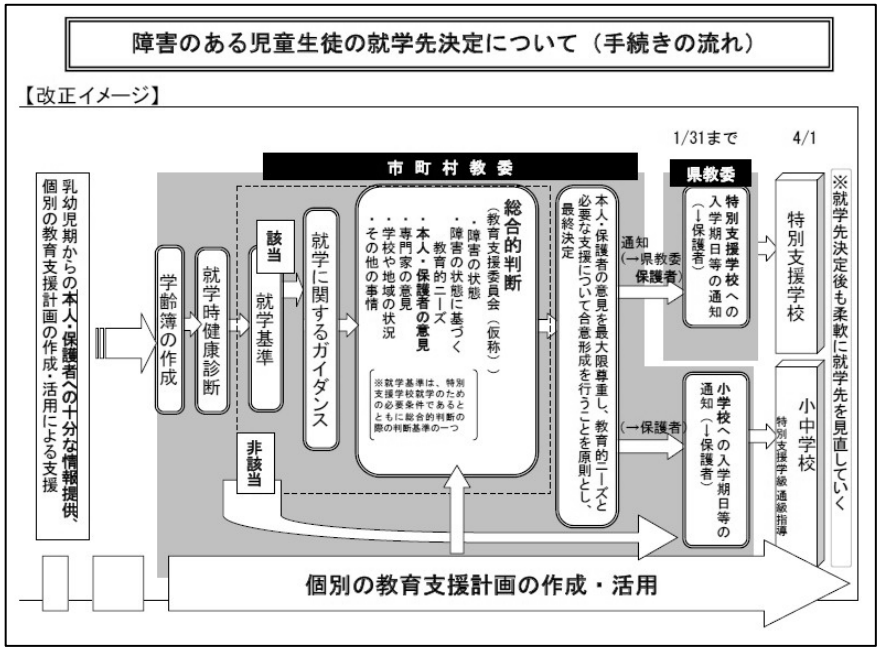

図２　インクルーシブ教育における就学先決定システム

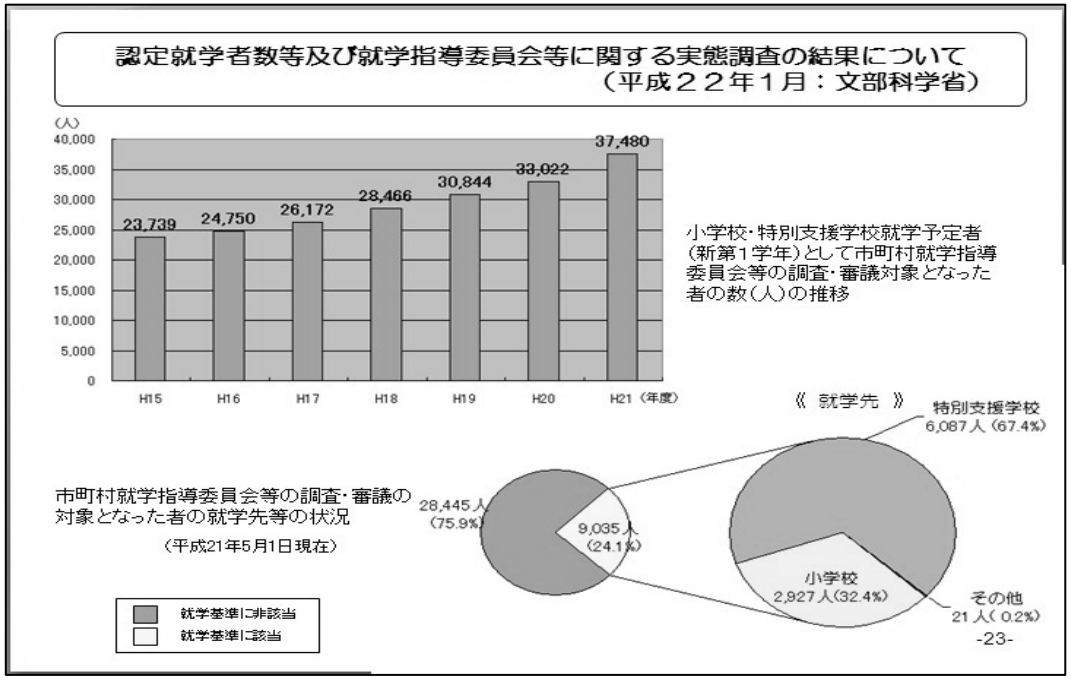

図３　平成 22 年　認定就学者数実態調査

この認定就学者数の割合の高さ（32.4%）は、小学校における特別支援教育の充実を反映している可能性もあるが、就学指導結果と保護者の意向の齟齬を反映している可能性もある。
いずれにせよ、インクルーシブ教育における就学先決定システムを見通しつつ、発達に弱さや偏りのある子どもたちに対する就学までの支援をどのように充実していくかをいますぐに検討しはじめる必要がある。（安達によるコメント）

資料提出者：　旭児連 顧問
安達 潤(北海道教育大学教授)